

神山中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①必要な学びを意識させることにより、主体的に学習に取り組む態度を育成する
- ②やり遂げ感を実感できる学習活動により、確かな学力を育成する

【各校の取組状況の把握について】

学力向上委員会を適宜開催し、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能の習得については一定の成果が見られる。家庭学習にもまじめに取り組む、出された学習課題も概ねやり遂げられている。 ●与えられた課題以外の自分でする学習が十分でないため、知識が定着していない生徒もいる。	・主体的に家庭学習に取り組む、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・新しく習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面でも活用することができる。	・全教員が互いに授業を見合う機会を設定する。 ・毎時間の授業のめあてを明確にし、振り返りをさせる。 ・日々学で『問題集データベース』を、授業で『タブレットドリル』を活用する。 ・教科ごとに単元末テストを実施し、知識・技能の定着を図る。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』を支援する。		・研究授業を行い、互いに勉強できる機会を持った。 ・授業のふり返りが十分にできていない。 ・日々学・タブレットドリルのやり方については改善の余地がある。 ・単元末テストを導入したが、その活用方法については改善を要する。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』は週2回の活動をした。	・授業のふり返りの仕方や日々学・タブレットドリルの効果的な活用方法について検討する。 ・単元末テストを精選し、活用方法を再検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習では積極的に発言する生徒が多い。よりよい意見や考えを導こうと努力する。 ●様々な文章や資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめ論理的に説明することを苦手と感じている生徒が多い。	・根拠を明らかにして、自分の考えを書いたり説明したりできる。 ・問題を解決するために必要な情報を収集し、判断する力を身に付けられる。	・ICTを適切に活用して、自分の考えをまとめる力をつけさせる。 ・根拠を明らかにして発言する機会を意図的に設ける。 ・10分間作文に取り組みせ、発表会を開催する。 ・合同学習で積極的に発言させる。 ・読書の時間やビブリオバトルを通して、読書の習慣化を図る。		・ICTは活用できたが、まとめ方はスキルアップしたい。 ・根拠を明らかにした発言を促すことはできた。 ・10分間作文の成果はあがっている。 ・感染症対策で合同学習の異学年交流はオンラインで行った。 ・読書時間の確保に努めた。	・構想を練った後にまとめをさせるよう心がける。 ・根拠を書くように指示したり、解答例を見せたりする。 ・作文を書く機会を多く設定する。 ・「させる読書」から「する読書」への転換を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には意欲的に取り組むことができる。ノーチャイム制だが、授業開始時には学習できる環境が整っている。発言も多い。 ●課題を仕上げることに満足して、自分に合った学習を計画的に進められていない生徒もいる。	・学習内容や学習態度のふり返りを進んで行い、その成果や課題を明確にして、主体的に学習に取り組むことができる。	・家庭学習のてびきや『やり遂げタイム』を活用して、家庭学習の仕方を習得させる。 ・あゆみに家庭学習時間を記録させる。 ・自主学習ノートを全教員で指導する。一部評価に結びつける。 ・テスト前計画表を活用し、各自の学習の仕方について成果や課題を明らかにさせる。		・感染症対策で『やり遂げタイム』は学年ごとの活動となった。 ・あゆみに家庭学習時間を記入することで、指導する機会が持っている。 ・自主学習ノートの全教員による指導は、多くの目で学習状況が見られてよかった。 ・テスト前計画表で、各自の学習の仕方の成果や課題を次時につなげることができた。	・キャリア教育を意識付けに役立てる。 ・それぞれの単元の過程や帰着点を生徒も見通せるように示す。

令和4年度 学力向上ロードマップ

